

家や屋外で死亡 感染122人

警察庁調べ 昨年、12月は急増56人

自宅や屋外などで人が亡くなった際に警察が対応した事案で、新型コロナウイルスへの感染が確認された死者が昨年12月までに計122人いたことが警察庁への取材でわかった。このうち56人は12月に亡くなっていた。ただ、直接の死因が新型コロナウイルスかわかっていない人も含まれるという。

医師にかかっていた患者が病死した場合などを除き、人が亡くなった際には事件性の確認などのために警察が出勤し、対応にあたっている。

警察庁によると、感染が確認された122人を年代別に見ると、70代の39人が最多だった。60代は23人、80代は22人、50代は20人、90代は9人。それより若い世代では40代が6人、30代が2人。年代不明は1人だった。都道府県別では東京が36人で約3割を占め、大阪(25人)、兵庫(11人)、神奈川(9人)、埼玉(7人)と続いた。

月ごとの推移を見ると、

死者21人の感染が確認された4月を除けば11月までは10人以下で推移していたが、12月に入って56人と急増。このうち、自宅や高齢者施設、宿泊施設などにいて死亡した人は50人、路上など外出先において死亡したのは6人だった。死亡する前に感染が確認されていた人は18人、コロナ感染の疑いがあるとして死後にPCR検査をした結果、感染が

判明した人は38人いた。

新型コロナウイルスに感染すると、血栓が得意やすいことが知られている。感染症に詳しいグローバルヘルスケアクリニックの水野泰孝院長は、「急死の原因には、血栓症による脳梗塞や心筋梗塞が考えられる」と指摘。「心血管疾患のある人や肥満の人は血栓症のリスクが高く、当初の症状が軽くても入院した方がよい」と話す。